



PRP-Japan (Postural Restoration Provider – JAPAN)

応募締切 – 毎年10月1日



PRI Japanは、**日本国内で活動する全てのヘルスケア及びフィットネスの専門家を対象に**、PRP-Japanという資格を付与・管理しています。資格試験の開催は年に一度：毎年10月1日に応募書類（一次試験）の提出締切が、そして翌2月には書類審査合格者が集う京都での現地試験（二次・最終試験）があり、年に10-15名程の有資格者を輩出しています。

PRI Japanは、PRP-Japanの資格応募にあたり、各志願者が最低でも**2年**のPRI臨床実践経験があることを強く推奨しています。また、一次試験試験提出物の準備過程におけるAI (Artificial Intelligence) の一切の使用を禁止しています。

PRP-Japan資格の意義

PRP-Japanは、Postural Restoration Institute®(PRI)本部がアメリカ国外で初めて発行を認めたPRI公認資格であり、その付与・管理はPRI Japanが一括して行っています。PRP-Japanは米国発行のPRC・PRTと同等に扱われ、これらの資格と同様の臨床知識・技術を有しているものと認識されます。

PRP-Japan資格の意義は以下の通りです。

日本国内での

- ・ 患者 / クライアントが受ける、PRIコンセプトに基づいたヘルスケア及びフィットネス・サービスの質の担保
- ・ PRIに深い知的興味及び専門性を持った実践者の認知と、実践者を対象とした継続的支援の提供
- ・ PRIサイエンスの保護と発展
- ・ 共通の臨床概念を持ち、共通言語を話す専門家らによる多分野連携・統合の促進

PRP-Japan有資格者は、PRI JapanおよびPRI本部のプライマリー・セカンダリー講習会を半額(50%OFF)で受講することができるほか、PRI Japan公式ウェブサイト『Find A Provider』に紹介ページが掲載されます。

*PRI本部のセカンダリー講習であるHuman EvolutionおよびPrimary Non-Manual Techniques Workshopには半額が適応されません

PRP-Japan 受験資格

- ・ PRIを実践しているヘルスケアまたはフィットネス領域の専門家

PRI講習 受講歴

志願者は以下の講習を修了している必要があります。 *『修了』とは修了証を有している状態を指します

- ・ マイオキネマティック・リストラクション
- ・ ポスチュラル・レスピレーション
- ・ ペルビス・リストラクション
- ・ インピンジメント&インスタビリティ

受講は日米、対面/ライブストリーム/Home Study形式を問いません

資格試験の流れと費用

一次試験 (書類審査): 次頁に記載されている8つの応募要項を全て提出したのち、レビューワー(2-3名)によるそれら書類のレビュー(評価)結果により合否が決定します。応募書類の提出期限は**毎年10月1日**です。一次試験には費用はかかりません。

二次試験 (現地対面): 翌2月に京都にて土日の二日間で行われる、筆記試験と実技試験のハイブリッド形式の最終試験です。二次試験受験には200,000円(税込)の受験費用が必要となります。

「一次試験に合格したが、二次試験の都合が合わない」等の場合には、二次試験受験は翌年に限り持ち越しが可能です(翌年も受験しない場合は、受験の意志無しと認め、次回は一次試験書類から再提出となります)。応募は通年で受け付けております。二次試験の席数には限りがありますので、ご自身の受験枠を確実に確保したければお早めの応募をお薦めします。

資格更新には、3年毎に3 CEUsの継続教育及び20,000円(税込)の別途更新費が必要となります。更新の詳細はPRP-Japan合格者に送られる別紙資料を参照してください。



応募要項 チェックリスト

一次試験応募にあたり、以下の8項目を**全て**10月1日までにご提出ください。
未提出のものがある場合、レビューワー審査は行われません。

- ☐ 背景情報
- ☐ PRI受講歴
- ☐ 現在有効な保有資格
 - ・ 有効期限がある場合はそちらも明記されているようにする
- ☐ 症例報告
- ☐ その他臨床・学術的応用 実践例
- ☐ テクニック実技動画 (x3)
 - ・ 5分以下の動画を3つ、またはまとめて提出する場合、15分以下の動画を1つ
 - ・ 公開は『限定』推奨 *URLを知っている者だけがアクセスできるモードなど
- ☐ リサーチ・レビュー
 - ・ レビューした論文2つも全文(フルテキスト)をPDFで送付する
 - ・ 『これからのリサーチトピック』も忘れず言及する
- ☐ PRI Advocacy アドボカシー *Advocacy = 積極的支援、指示、唱道
- ☐ 上記提出物作成にAIを一切使用していない



応募要項 提出方法一覧表

一次試験応募にあたり、全8項目を以下のフォーマットでご提出ください。
フォーマットに不備がある場合、レビューワー審査は行われません。

	提出方法	ファイル形式・ファイル名	注意事項
1. 背景情報	Google Formで まとめて提出 *URLはHPまたは次頁 QRコード参照		
2. PRI受講歴			修了証を有しているもののみ。
3. 保有資格		PDF形式 ファイル名「保有資格」	有効期限があればそれも含む。
4. 症例報告		ワード(.docx)形式 ファイル名「症例報告」	【背景】、【介入】、【結果】、【考察】をまとめる。 個人を特定できる情報は削除した状態で提出すること。
5. その他臨床・ 学術的応用 実践例		ワード(.docx)形式 ファイル名「その他臨床学術的応用実践例」 その他資料の追加提出があれば PDF形式で、「実践例追加資料1」「実践例追加資料2」 …のように名称表記する。	
6. テクニック 実践動画(3つ)		YouTube等の動画サイトにアップロードし、そのURLを提出 または Google Drive等を介したファイル共有(動画はMP4形式とする) *動画ファイルを直接メール送付しないこと *閲覧・アクセス制限は解いておくこと(『限定』公開推奨)	3つの動画に分割する場合、それぞれ5分以内、1つの動画にまとめる場合は15以内の長さにする。 指導の全体像、及び志願者が指導時に発している言葉などが明確に視聴できること。
7. リサーチ・ レビュー	メールにまとめて 添付し、Info@ PRIJapan.LLCに送付	ワード(.docx)形式 ファイル名「リサーチレビュー」 *2つまとめてひとつのワードファイルに *レビューした論文も全文(フルテキスト)をPDF形式で添付する	【将来のリサーチトピック】の提案1つも忘れないこと。
8. PRI Advocacy		ワード(.docx)形式 ファイル名「PRI Advocacy」	



各項目の詳細

各項目の詳細内容は以下の通りです。YouTubeの解説動画も参考にしてください。

1. 背景情報

- ・ 志願者の氏名・所属・連絡先・経歴など
左QRコードの提出フォーム参照

2. PRI受講歴

- ・ 志願者の過去の修了済PRI講習受講歴（修了証を有しているもののみ）
受講は日米、対面 / ライブストリーム / Home Study問わない
左QRコードの提出フォーム参照



提出用Google Form

3. 現在有効な保有資格

- ・ ヘルスケアまたはフィットネスの専門家として有している資格をPDF形式で提出
- ・ 有効期限がある場合は、有効期限も含む

4. 症例報告

- ・ マイクロソフト・ワードドキュメント(.docx)で提出
志願者自身が実際に担当する機会のあった患者 / クライアントの症例をひとつ選び、詳細を報告する。
自らの職域内で患者 / クライアントをどう評価し、その結果をどう解釈し、どう介入プランを構築し、結果、どう変化したかを時系列を追って説明すること。カルテ、EMRの単なるコピーは不可。症例の【背景（症例経緯）】、【介入】、【結果】、【考察】を自身の言葉で紡いでいく。文章調・体裁は一般的な学術大会や論文投稿に則り、口語表現は用いない。中でもPRIコンセプト、PRI用語、テクニック名などの表記は必ず正確に用いること。
文字数・ページ数などの制限はないが、効果的にまとめること。（患者/クライアントの氏名、所属先など）個人を特定できる情報は必ず削除した状態で提出する。

ヒント: マイオキン、ポスチュラル、ペルビス、I&I講習で言及される1) 評価のポイントや、評価テスト結果に基づく患者 / クライアントの状態の理解、そして2) 構築された介入プランに十分に妥当性・整合性があるかが評価の大きなポイントになります。文章が主となるセクションではありますが、必要であれば表、写真、箇条書きなどを部分的に用いても構いません。読み手に伝わる工夫をしましょう。

5. その他臨床・学術的応用 実践例

- ・ マイクロソフト・ワードドキュメント(.docx)で提出
志願者自身が対患者 / クライアントの臨床実践以外でどのようにPRIを応用してきたか、実践例を提出する。ここまでに関わった、PRIコンセプトに基づく学術大会・論文発表、インサービス(院内伝達講習)、教材作成、SNS投稿等があれば、それらに関して解説・説明する。
例: クリニックのブログで呼吸介入の臨床概念について説明する記事を上げた、チームのアスリート対象に呼吸介入の勉強会やワークショップを行ったなど

その際に実際に使用した資料(プリント、パワーポイント等)があれば、PDF形式で別途追加提出すること。



6. テクニック実践動画

- ・ 任意のノン・マニュアル・テクニックを**2つ**、マニュアル・テクニックを**1つ**選び、それぞれを患者 / クライアント相手に実践・指導している様子を動画に撮って提出する
- ・ 3つの動画を分けて提出する場合はそれぞれ5分以内、1つの動画にまとめて提出する場合は15分以内となるようにする。動画提出の際は1) YouTube等のサイトに投稿し、そのURLを提出するか、2) Google Drive等のファイル共有サービスを使い、そのURLを提出するものとする。ファイル共有する場合、動画ファイルはMP4形式とする。レビューワーが閲覧が可能によう設定する (URLを知っている者のみアクセスできる『限定』公開設定推奨 - レビューワーが動画にアクセスできない場合、この項目は未提出と見做す)。

動画内で指導・実践する相手は職場の同僚や友人・家族でもよいが、なるべく実際の臨床実践に近い環境や指導風景になるよう工夫すること。志願者が指導している風景の全体像が見えるようにし、交わされている言葉が聞き取れるような動画であることを確認する。

志願者自身の職域として手技の使用が許されない場合、1つのマニュアル・テクニックを選択した上で、そのマニュアル・テクニックを補完できるノン・マニュアル・テクニックを1つさらに選び、そちらを指導・実践する動画を撮ること。

7. リサーチ・レビュー

- ・ マイクロソフト・ワードドキュメント(.docx)で提出
- ・ レビューした論文2つも全文(フルテキスト)をPDF形式で提出

志願者が任意のPeer-Reviewed Journal(査読付き学術誌)に掲載された学術論文を**2つ**選び、批評する。その上で、【将来のリサーチトピック】を1つ提案する。

2つ選択する学術論文のうち、少なくとも1つは英語論文を選ぶこと。論文の概要を述べた上で、その内容がどうPRIコンセプトと整合するあるいは矛盾するか、自らの理解と考察を文章にして論ずる。文字数・ページ数などの制限はないが、効果的にまとめること。文章調・体裁は一般的な学術大会や論文投稿に則り、口語表現は用いない。

【リサーチトピック】の提案では、今回の論文の内容等を踏まえ、将来的にどんなPRIコンセプトと研究の融合の余地がありそうか、どんな仮説を検証をしたらどんな結果が出ると思われるか、その結果を我々はどのように活かしていけそうか、独自の意見と展望を述べる。

ヒント: 概要箇所は抄録部分をそのままコピー&ペーストするのではなく、志願者自身の理解に基づき、重要だと思う箇所を中心にまとめましょう。英語論文を読み解く際に翻訳ソフトを使用しても構いませんが、提出する文章は志願者自身のオリジナリティが溢れるものであることを確認してください。万が一剽窃行為(Plagiarism)が認められた場合、志願者は自動的に不合格となりますのでご注意ください。

PRIコンセプトとの整合性に関する評論部分では、言い換えれば、志願者がどれほどPRIコンセプトに関して深い理解があり、その視点から物事を批判的に批評できているかが大きな評価ポイントとなります。どんな論文にも長所短所があり、臨床的応用の限界があります。これらを踏まえた批評ができれば、素晴らしいですね。

8. PRI Advocacy

- ・ マイクロソフト・ワードドキュメント(.docx)で提出

志願者自身がこれからPRI実践者、およびPRI有資格者として、どのような社会の役割を担っていきたいか自身の意見を述べる。1) 現在、プロフェッショナルとして、どのような臨床現場で、誰に対して、どのようにPRIを実践しているか、2) 学究的活動はしているか、誰かにPRIについて教える機会はあるか、3) どんな風にPRIを啓蒙してきて、これからどのように啓蒙したいと思っているか、などについて言及する。

資格および資格試験に関するご質問やお問い合わせは、
教育・資格責任者 阿部さゆり (SayuriAbeHiraishi@PRIJapan.LLC) までご連絡ください。